第２回県中学新人大会終了 ……高丘（東播）が優勝

太田（神戸）、伏兵豊岡に敗れる

第２回県中学新人大会は、２月20、27日の両日、県下８地区代表校が参加して、竜が台中、高倉中にて行われた。

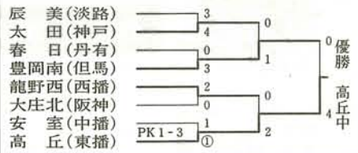
試合は、８チームのトーナメントにより行われ、神戸地区代表太田中は、準決勝で豊岡南中を圧倒的に押しながらも敗れ、決勝進出はならなかった。

決勝戦は、東播地区代表高丘中と、但馬地区代表豊岡南中の間で行われた。高丘中は横山を中心とするパスワークで中盤を制し、横からのゆさぶりで前半15分ＭＦ柳生からのパスをＦＷ塚島がプッシュし先取点を上げた。

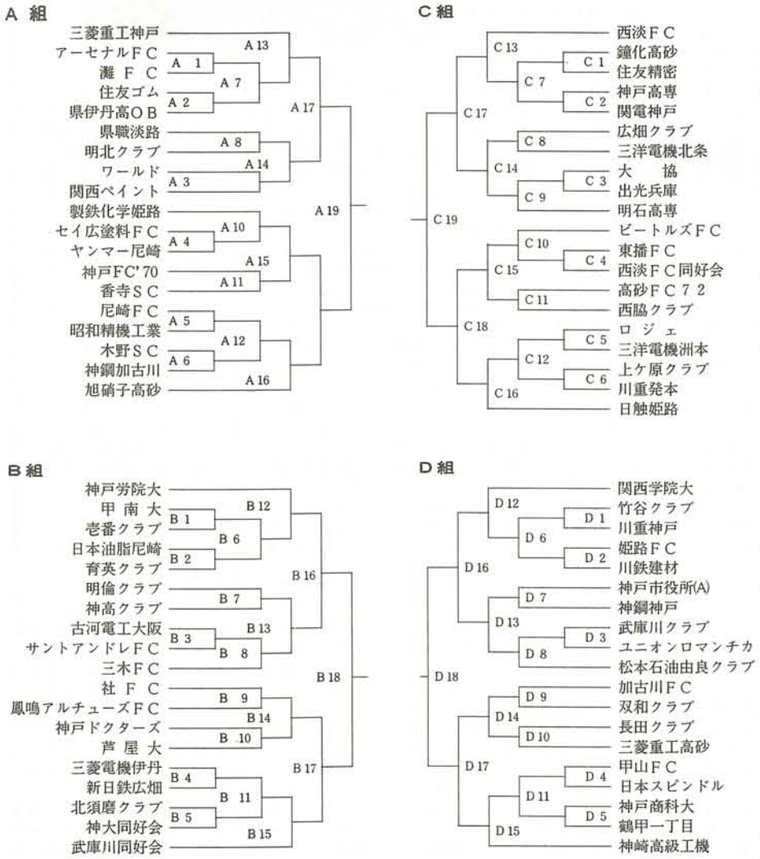
その後、豊岡南中も単発的に安田がボールを持ち込んで攻めるが、高丘中のＤＦ松下を中心とした守りを崩すことができず、試合の流れは高丘中優勢のうちに前半を終了した。さらに高丘中は後半７分、柳生からのパスを栗脇が決め、同15分にも金谷のロビングから混戦となったところで西海が右45度からクリーン・シュートを決めて勝利を決定づけた。

今回の大会は高丘中のほかにも、太田中や、準決勝で惜しくも高丘中に敗れた、西播代表龍野西中など今後の健闘が期待される好チームがそろった大会であった。

〈第２回兵庫県中学校新人大会結果〉



昭和58年度全日本選手権　第63回天皇杯兵庫県大会組み合わせ



―― 57年度　春季市内高校リーグ始まる ――

めざせ　レベル・アップ

57年度市高校春季リーグは３月20日より28日にかけて市内各高校を会場に行われた。

市内リーグも３年目、春、秋季あわせて６回目となり、各チームのレベルアップに大きな影響を与えてきた。今回のリーグ戦については、県選抜チームのイギリス遠征が春休みに行われることや、チームの一部から、年間スケジュールが過密であるという意見も出たために、開催中止も考えられたが、各部、各ブロックごとに会場、審判を確保することで、例年どおり開催のはこびとなった。このため、日程も一週間以上にわたり、会場も分散するなどやや変則的なものとなった。

リーグ戦を展望すると、まず入替戦で東灘を破り１部に上がった神戸の戦いぶりが注目される。同じブロックには、新人戦県大会で上位進出をはたした赤塚山、北須磨もおり、かなりの激戦が予想される、また、２部も、３部から勝ち上がってきたフレッシュなチームと、伝統ある実力校チームとからなるチーム構成で、これもどのチームが勝つか予断を許さない好試合が展開されそうである。

リーグ戦のブロック分けは以下のとおり。

【１部Ａ】神戸・六甲・北須磨・赤塚山
【１部Ｂ】御影工・神戸ＦＣ・御影・滝川
【２部Ａ】東灘・鈴蘭台西・兵庫・長田
【２部Ｂ】須磨東・市神戸工・星陵・八代
【３部Ａ】夢野台・兵庫商・鵯子・育英
【３部Ｂ】兵庫工・神戸甲北・灘・私神港
【３部Ｃ】市神港・須磨・伊川谷・葺合・神戸北
【３部Ｄ】鈴蘭台・神戸西・村野工・神戸高専

58年度　関西社会人リーグ展望

58年度関西社会人リーグは４月２日に開幕される。今年の大きな話題は何といっても松下電器が加入したことである。松下電器は水口監督のもと着々と実力をつけ、２回目の関西リーグへのチャレンジで見事昇格した。湯木、佐々木を中盤に配し、攻撃力の高いチームであり、今春御影工高から永島が加入して、一段と得点力が高まるだろう。会社をあげて日本リーグ入りをめざしており、その戦いぶりが注目される。

昨年、初優勝を飾った兵庫教員、準優勝で全国社会人選手権では優勝し、自信にあふれる大阪ガス、新人が加わり実力アップを図った電々近畿、大日本電線、伝統ある紫光クラブ、新加入の松下電器などが58年度の優勝をねらっている。それぞれ実力が伯仲しているので、かなり混戦が予想されるが、勝負強く、得点力あるチームが優勝するであろう。

４月２日、万博スポーツ広場での開幕戦、兵庫教員対松下電器の一戦は大いに注目される。（岡本）

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、１年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650　神戸市中央区八幡通２－１－10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会　☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

本紙は右記の店にもあります

有宏スポーツ
東灘区御影本町4丁目11-9　☎078(821)8449
阪神御影駅南側西へ30m

灘スポーツ
灘区倉石通５丁目１－８　☎078(861)4671
市バス水道筋６丁目上がる100ｍ東側

塩谷スポーツ
兵庫区大開通７丁目５　☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店　☎078(391)0895
プレザーショップ、トーアロード店　☎078(391)0896
ドルチェ・マック、センター街　☎078(332)0141

ワールドスポーツ
東灘区深江北町４丁目７－３　☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

オウビ
中央区琴緒町４－４－５　☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸経理専門学校斜め前（田上ビル１階）

スメラ
湊川店　湊川プラザ２階　☎078(511)2234
鈴蘭台店　ダイエー西側　☎078(592)0470

加茂トアロード店
中央区三宮町３－８－８　☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100ｍ

マヤスポーツハウス
灘区森後町１丁目８－８　☎078(841)8811
国鉄六甲道駅北　兵庫信用金庫六甲支店山側

ヤノ運動用品
本　　店　中央区三宮町3-8-1　☎078(391)1121
ファイブ店　中央区三宮町2-7-8　☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

Tuchheim's
Für große und kleine Feinschmecker
Kobe-Frankfurt am Main
Seit 1892
ユーハイム

月刊
神戸のサッカー

1983　３月号

発行所　神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651　☎（078）232-0753
発行人および編集人　一北　四郎
神戸市灘区上野通６丁目３－１２
〒657　☎（078）861-3100

毎月1回10日発行　購読料１部50円

第９回兵庫カップ

兵庫教員団　Ｖ－４を達成！

三菱神戸　チャンスに得点できず

兵庫県の57年度サッカーナンバー・ワンを決める第９回兵庫カップは，２月６日から20日まで神戸中央球技場で，関西リーグの兵庫教員と三菱神戸、そして今年度天皇杯の県代表となった四チームが出場して行われた。大会の最大の焦点は兵庫教員が四連覇するかどうかにあったが、結局これを阻むチームはなく、兵庫教員の優勝に終わった。

◁優勝を決めた兵庫教員団（２月20日　神戸中央球技場）

▷決　勝

兵庫教員団　１｛０－０／１－０｝０　三菱神戸

【評】決勝は兵庫教員と三菱神戸の対決である。準決勝で試合内容の悪かった兵庫教員がどう立ち直るか。一方、同じく準決勝で攻守の切りかえの早い試合運びができ，得点力の高い、若さあふれる三菱神戸が、兵庫教員のディフェンスを崩すことができるかに興味が持たれた。

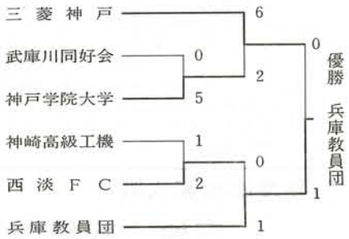
前半、兵庫教員がペースをつかみ、積極的に攻撃したが、シュートが悪くものにならない。後半は逆に三菱神戸が守備陣の押し上げから兵庫教員陣内に深く攻め込み、チャンスをつかみかけたが、これも決定力に欠けた。後半20分、兵庫教員はＰＫを得て１－０とリード。この後、お互いに追加点、同点のチャンスがあったが結局ゴールを割ることはできず、兵庫教員の四連覇が決まった。

兵庫教員は試合巧者ぶりを発揮して優勝したものの、得点能力が低く、来シーズンに向けての不安が感じられた。心身両面にわたる摂生とトレーニングをつみ、レベルの高い戦術を身につけてもらいたい。

三菱神戸は、来季は県リーグであるが、守備を強化し、県リーグを勝ち抜いて関西リーグに早く復帰してもらいたい。

また、一回戦で神崎高級工機を２－１で下した西淡ＦＣは準決勝で兵庫教員に挑戦したが、兵庫教員の堅いディフェンスを崩すことができず０－１で敗れた。関西リーグ入りをめざすならば得点力のアップを図るべきである。一方、武庫川同好会を５－１で下した神戸学院大は準決勝で三菱神戸に挑戦したが、ディフェンスの弱さと攻守の切りかえのおそさがめだち２－６と完敗した。学生リーグ１部入りをめざすならば、練習の絶対量を増し、たくましい気力と正確な技術を身につけねばならない。（岡本隆英）

〈第９回兵庫カップ結果〉



―――― 神戸市社会人リーグ終了 ――――

神戸FCユース　1部　４年ぶり２度目の優勝

57年度神戸市社会人リーグは1部10チーム、２部２組20チーム、３部６組60チーム計90チームが参加して、昨年４月に開幕し、磯上、神戸中央サブを中心に行われ、２月にその幕を閉じた。

１部は昨年県リーグから降格した神戸ＦＣユースが最終戦で同じ神戸ＦＣの兄きチーム、シニアＡに敗れたものの、一年間を通して着々しくフレッシュな戦いぶりを見せ、４年ぶり２度目の優勝を飾った。

神戸ＦＣユースは国体少年の部兵庫県代表の井上、溝畑、今春からヤンマーに登録される白沢らがチームの要所要所をしめ、攻守に安定した力を発揮して、第７戦アーセナルを４－１で破って早々と優勝を決めた。

２部はＢ組で兵庫Ｔ　Ｃが１位となり58年度は１部でプレーすることになった。Ａ組はＫＲ＆ＡＣが１位となったが、上級リーグへの昇格の意志がないため２位の赤塚山ＯＢが１部に返り咲くことになった。

（３部の記録は次号へ）

神戸市協会
58年度通常総会開催
のお知らせ
○と　き　58年４月16日(土)　18:00～
○ところ　三木記神戸市立スポーツ会館

２部　Ａブロック

チーム名	KRAC	赤塚山OB	スマローFC	御影スポーツ	鵯甲1丁目	甲山FC	明鉄姫路	東灘FC	関電神戸	かつらおとし	勝点	得失点差	順位
KR&AC		△ 1－1	○ 8－1	○ 8－0	○ 2－0	○ 3－1	□ 1－0	○ 7－0	○ 2－0	○ 4－0	15	26	1
赤塚山OB	△ 1－1		○ 4－2	○ 1－1	○ 4－0	○ 1－0	■ 0－2	○ 4－0	■ 0－1	○ 4－0	14	23	2
スマローFC	○ 1－0	● 4－2		○ 3－2	○ 5－0	○ 1－0	○ 3－1	○ 5－1	○ 1－3	○ 3－0	11	9	3
御影スポーツ	○ 0－8	● 1－1	● 2－3		○ 3－2	○ 2－1	○ 1－2	○ 7－2	○ 2－0	○ 4－1	10	4	4
鵯甲1丁目	● 0－2	● 0－4	● 2－3	● 2－3		○ 1－0	○ 1－4	● 1－4	● 1－4	● 1－1	8	5	5
甲山FC	● 1－3	● 1－1	● 0－1	● 1－2	● 0－1		△ 1－2	● 1－3	● 1－5	● 5－0	2	1	7
明鉄姫路	■ 0－1	△ 0－1	● 1－2	● 2－1	● 1－1	△ 2－1		△ 0－3	□ 2－1	○ 5－1	7	3	7
東灘FC	● 2－7	● 0－4	● 1－5	● 0－2	● 2－1	● 3－1	● 3－0		● 0－4	● 2－0	4	11	8
関電神戸	● 0－2	△ 0－0	● 1－1	● 0－2	● 2－1	● 0－1	■ 1－4	○ 4－0		○ 3－0	6	5	9
かつらおとし	● 0－4	● 0－4	● 0－3	● 1－4	● 1－4	● 0－1	● 5－1	● 0－7	● 0－3		0	17	10

２部　Ｂブロック

チーム名	兵庫Ｔ Ｃ	神戸製鋼	市立兵庫	住友ゴム	明蓮西神戸	あしかび	Ｆ Ｃ ’78	東急クラブ	関　川	勝点	得失点差	順位
兵庫Ｔ Ｃ		● 2－1	○ 0－0	△ 3－0	○ 0－0	△ 3－1	△ 2－1	○ 4－0	○ 6－0	14	10	1
神戸製鋼	● 1－2		● 1－0	○ 0－0	○ 6－2	○ 1－2	○ 1－0	○ 7－1	○ 5－0	12	16	2
市立兵庫	△ 0－0	○ 0－1		△ 1－2	○ 1－0	△ 1－2	○ 1－2	○ 3－1	○ 2－1	9	3	3
住友ゴム	△ 0－3	○ 0－0	△ 2－1		△ 1－1	△ 1－1	○ 1－2	○ 1－1	○ 1－1	9	2	4
明蓮西神戸	○ 0－0	○ 2－0	○ 0－1	△ 1－1		△ 3－3	○ 2－0	○ 3－0	○ 3－1	9	1	5
あしかび	△ 1－3	△ 1－1	△ 2－1	△ 1－5	△ 3－3		△ 0－0	○ 1－0	○ 3－0	7	1	6
Ｆ Ｃ ’78	△ 1－2	△ 1－1	○ 1－2	○ 1－1	○ 2－0	△ 0－0		○ 4－2	○ 5－0	5		7
東急クラブ	○ 0－4	○ 1－7	○ 0－2	○ 1－1	○ 0－3	○ 0－1	○ 2－4		○ 3－1	3	19	8
関　川	○ 0－6	○ 0－5	○ 1－2	△ 1－1	△ 1－1	△ 1－1	○ 0－5	△ 1－3		2		9

いよいよ４月より新ルール実施

“ゴールキーパーの４ステップ・ルール”

テレビで放映されている国際試合においてはすでに「ゴールキーパーのフォー・ステップ・ルール」が新しくなっていることをご存知の方も多いと思いますが、いよいよ日本でも来たる４月の新シーズンから実施されることになりました。この新ルールは十分心得ていなければ、自陣のペナルティエリア内で相手側チームに間接フリーキックを与えてしまうという重大な改正点を含んでいますので、各チームとも以下の通達文をよく読んで周知徹底を図って下さい。（１級審判員　長岡康規）

昭和58年１月

ゴールキーパーの
フォー・ステップ・ルールについて

（財）日本サッカー協会
同　　審判委員会

1982年度サッカー競技規則の改正についてはすでに昭和57年９月に通達したが、その中でゴールキーパーのフォー・ステップ・ルールの改正については、解釈や適用についての疑義のあることから、その施行を昭和58年度シーズンからとすることとしてきた。その後のＦＩＦＡからの通達やアジア大会での審判研修会で得た情報などをもとに、審判委員会において調査研究の上、下記のような解釈と適用に関する統一見解を作成したので、ここにすでに通達した改正本文、解説とともに通知する。新シーズンからの実施に際して混乱の起きないよう、登録チームおよび審判員に周知徹底を図られることを要望する。

記

１．FIFAからの通達

(1)　改正された規則の本文
第12条　反則と不正行為
５．ゴールキーパーが自分の側のペナルティエリア内で
(a)　ボールが自分の支配下になったときから、ボールをプレーさせるために離すことなく、４歩を越えて歩き、またボールを離したあと、他の競技者に触れるかまたはプレーされる前にふたたびそのボールに触れること。
(b)　現行通り

(2)　改正の意図と精神
１．基本的な考え方は、ゴールキーパーがボールを自分の支配下においたときから４歩歩いたのちに、ペナルティエリアの中でボールを足でドリブルして進み、またそれを手でつかむことをやめさせようとすることである。
２．「ボールを支配する」ということは、ゴールキーパーの場合は、手の中にボールを持っているということである。
３．しかしながら、ゴールキーパーが自分の側のペナルティエリア内で足でボールをプレーすることを禁止するというような、基本的原則をまげた考え方をすることはできない。ゴールキーパーも競技者であり、自分の側のペナルティエリア内でも競技に参加する資格を他の競技者と同様に持っているのである。
４．したがって適用に当たっては次のような考え方が妥当である。
ゴールキーパーがボールを自分の支配下においた(手で)ときから、次のような方法で４歩まで歩くことができる。
――ボールを持ったまま。
――ボールをグラウンドにはずませながら。
――ボールを空中に投げあげて、またつかむ間に。
４歩を歩いたのちはプレーさせるためにボールを離さなければいけない。しかし、ボールを支配下においた（手で）のちに、ゴールキーパーがボールをグラウンド上においたら、上記の権利は失うことになる。そののちは、たとえそれまでに４歩まで歩いていなくても、他の競技者がボールに触れるまでは、もはや手でボールに触れたり、拾いあげたりすることはできない。
したがって、ゴールキーパーは、ボールを離すか、足でプレーし続けるかしなければならない。足でプレーする場合は、ゴールキーパーも他の競技者と同じ権利を持っているのだから、４歩以上歩くことができる。

２．日本サッカー協会審判委員会の統一見解

FIFAの解説で十分理解しうると思われるが、誤解を生じないために日本サッカー協会としてのさらにこまかい解説を加える。

(1)　ステップを数え始めるのは、キーパーがボールを手で保持して安定した状態で立った時からである。たとえば、ジャンプしてキャッチし着地のときよろめいたとか、倒れてキャッチして立ちあがったというようなときの、安定した状態で立つまでの足の動きはステップとはみなさない。
(2)　歩くとはある方向に移動するための動きで、その場でピボットするような足の動きは歩数には数えない。
(3)　ボールを完全にはつかまずに、手ではたき落したような場合は、手でボールを持ったとはみなさない。この場合を含めて、手では保持せずに身体や足でボールを処理してから足でドリブルを始めた場合は、そのあとでボールを手でつかむことができる。
(4)　要するに、キーパーは１回の連続したプレーの中で、１度だけ手でボールを持って扱うという権利を使うことができるが、それは４歩の間だけに限られている。１度その権利を使ったら、それ以後はボールを離すか、手を使わずにプレーしなければならない。この場合足でプレーを始めたら、手で持っている間に４歩まで歩いていなくても、もう手でプレーする権利はなく、ドリブルするかけってプレーに戻すかしなければならない。
(5)　味方でも相手でも、他の競技者がボールに触れたのちは、また手を使うことができる。したがって、ゴール近くでボールを手で持った場合、４歩以内に味方競技者にボールをパスして、また返してもらいそのボールを始めから足でドリブルすれば、ペナルティライン近くへ前進してから手で拾いあげることができる。しかし、これを利用して、必要以上に味方競技者とキーパーとの間でパスを交せば、5(b)項により時間かせぎのかけ引きとみられ罰せられる。
(6)　手でボールを持っているキーパーのプレーを妨害するためにキーパーにまつわりつく行為は、オブストラクションとして罰せられることは従来通りである。しかし、足でプレーしているキーパーに対しては、他の競技者の場合と同様正当な方法でそのボールを奪いにいくことができる。
(7)　最後に、今回の改正の主旨は、キーパーがボールを手で扱えるという特権を不当に行使して、いたずらに長い時間ボールを持つことによって、ゲームのスムーズな流れを阻害することを防止しようとするところにあることを強調しておきたい。したがって、キーパーがボールを持った場合は、早くボールをフィールドでのプレーに戻すよう心がけることが肝要であって、そのためにはキーパーのみならず、他の競技者の協力も重要となろう。また審判は、改正の精神がこの点にあることを十分理解して、適切な適用を図ることを望みたい。

57年度高校新人戦

三原、総体の雪辱を新チームで果す

57年度県高校新人大会は、２月11日より27日まで、神戸中央球技場ほか県下４会場で行われた。県大会は各支部予選を勝ち抜いた32チームによる勝ち抜き戦で争われ、決勝は本年度高校総体の決勝と同じ三原と御影の対戦となり、要所要所に好選手を配し、個人技に勝る三原が２－０で御影をおさえ優勝した。

大会を振り返って

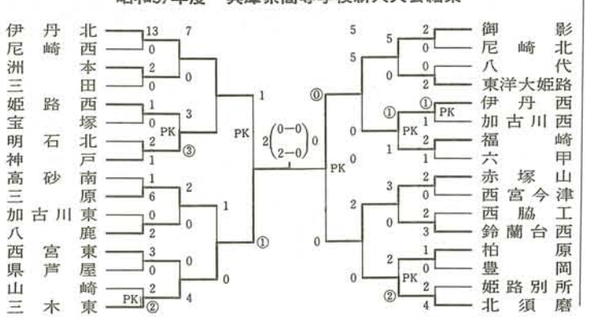
新人大会にはチーム作りの苦労がうかがえます。三原のように個人技の優れた選手の多いチームはそれなりにレベルの高いサッカーをして優勝しましたが、チームとしては守備の強化や、中盤選手の育成など課題が残っています。また、ポスト和田に米原を配して組織的なサッカーを狙う御影はやはり個人技のレベルアップが最大の目標になります。

同じようなことが、県大会出場32校全般に言えるのではないかと思いますが、チーム編成上の工夫は、今後特に考えるべき大きな問題ではなかったでしょうか。

もちろん、個人技そして体力と大きな意味でのパワーアップを選手一人一人が考えて精進してほしいと思います。総合体育大会、さらに近畿大会と、58年度の各大会も激戦であることは間違いなく、予測のつけ難い熱戦がくりひろげられることと思いますが、今回行われた新人戦を足掛かりに一層の努力をして58年度をスタートされるよう期待します。

（高体連委員長　佃　幹夫）

昭和57年度　兵庫県高等学校新人大会結果



モルテンゴム工業株式会社
広島／東京／大阪／名古屋／福岡／札幌

サッカー　教え方 学び方〈14〉

協力 毎日新聞社

岩谷　俊夫

緩急プレー

新聞の批評に「動きに緩急が乏しく、終始単調な攻撃で…」と書かれる。コーチに「もっと緩急をつけて攻撃しろ」などといわれる。選手の身になってみると、11人もいるチームの動きにどうしたら緩急がつくのか、判断に苦しむ。

チームは11人の呼吸で組織力が一つの波にのる。１人ずつのプレーの中に緩急ある動作がなくて、攻撃に守備に、緩急ある波調は生まれない。ボールを持っている選手が、スピードを変える。そのスピードにつられて味方は動くものだ。一人が全速力でドリブルしているのに他は歩いていると、いうことはない。味方チームのスピードの変化に、相手がひきずられているときは味方のペース。相手のスピードの変化にひきずられているときは相手のペースだ。だから、たとえたくさんボールを持っていても、逃げながらキープしたり、追い込まれてばかりいては、ドリブルしていてもパスしていても、こちらのペースとはいえない。もちろんセーフティーなパスでもそれが縦攻撃に移るための準備なら別だが、体が止まったままのパスは実際には長つづきしない。こういう苦しいときは打開策を考えてみよう。

その一つは強引な敵中突破である。突破したあとでシュートができなくても、そこでつぶれて出る、いわゆるフォロー攻撃だ。そのつぎはだれかがボールを持ったとき、周囲の味方が敵中に走り込むか、斜めに走るかして相手の守備をあわてさせる。勢いにのったときに勢いを殺さずつぶれて出るうみを出すプレーだ。あわてた相手はスキを出す。つまり相手をあわてさすためのプレーが緩急ある動作ということになる。ボールを奪えばその瞬間から攻撃である。反対にボールを取られたらその瞬間から守備である。その速さをどちらが先にとるか。それがペースの奪い合いである。相手より先にしかけていく機微のつかみ方。それは反射神経の速さであり、個人の緩急プレーの基本技である。

初心者には「反射神経」（57年３月号に掲載）の遊びを教えたうえでドリブルさせる。笛の合図で急ブレーキ。そして足底でボールを押さえて静止する。また笛、その姿勢から急スタートしてドリブル。いつ笛が鳴ってもよいつもりで繰り返す。

グラウンドから姿を消せ

つぎに選手を１人立たせ、両足を開かせる。みんなドリブルしながら立っている。選手の前にくるとサイドキックで股（また）下を抜く。サイドキックした瞬間、トップスピードを出してボールに追いつく。うまい子はダッシュする姿勢を先にとり、その足でボールを股下に通している。

これを複雑にしたやり方で５人くらいを５～７m間隔に縦に並べ、みんな足を開き、１人が連続して股下を通しながら、ドリブル、ダッシュ、ドリブル、ダッシュを繰り返す。

つぎは２人組で向かい合う。１人がゆるいサイド・キック・パス。一方はボールが足元に近づいた瞬間、右足なり左足を一歩開いて股下を通過させる。通過した瞬間、右足を開いた場合なら右回り、左足を開いたときなら左回りしてくるりとムキを変え、ダッシュしてボールに追いつく。このプレーを一瞬迎えにいって反転すれば、立派なフェイント・プレーである。こうしてボールをさわるとき、けるとき、流すとき、すべてに緩急の動作を加える。

緩急ある動作を個人がしなければ、チーム全体が緩急あるプレーになるはずがない。緩急ある動作があってこそ、グラウンド上から姿を一番消しやすい法は、まずアクセントのあるパスの動作とパスのあとの動きである。パスする。タマを離すということは、一瞬だれもがボールに目を注ぐ。そのボールがシャープであればあるほど目の注ぎ方が急になる。観衆もおそらくボールに目をやる。その瞬間、パスを出した選手が視界から消えるのは当然だろう。だからその瞬間を大切にしなければ損だ。そのあとボールを受けるために動く。消えるための緩急プレーとノーストップ・パス。そこにリターン・パスの効果がやかましくいわれる理由がある。１回のリターン・パスならねらいうちに守れるが、これが２回続くとどうにもならない。どこから消えた相手が出てくるか分からないからである。このパス・アンド・ゴーとノーストップ・パスの組み合わせ。これがスピーディーに、しかも複雑になったのが近代サッカーだとすれば、近代サッカーの基本技が何であるかは説明するまでもないだろう。

ゆっくりした動きから急に鋭く走りこむ。グラウンドから消える。プレーがなければ相手チームはくずせない

関西リーグへ――復帰めざせ！「三菱重工神戸」

三菱重工神戸は、47年に関西社会人リーグに加盟して以来、関西の名門チームとして、これまで多くの大会で好成績を残してきた。しかし、57年度はすべり出しから調子が出ず、ずるずると立ち直らぬまま経過し、結局最下位となって、関西社会人府県リーグ決勝大会で優勝した松下電器と入れ替え戦をする羽目となった。

これは、51年以降社員の新期採用が中止され、チームの新陳代謝を図ることができなかったことが最大の原因である。しかし、今までは何とかリーグの中位を確保し、56年度は久々に新卒の採用が再開されて、それを機に３位に浮上、今年はそのまま上昇気流に乗るかと思えたが……。

守備重点のゲームではあったが、入れ替え戦になって初めて一つのチームらしくまとまり、第１戦０－１、第２戦０－０でリーグ転落とはなったものの、次年度リーグ復帰への希望の手掛かりが何とか残されたように思えた。

しかし、問題はこれからであり既に新しい年へのスタートは切られている。今年のつまずきが気のゆるみ以外に考えられないとするならば、要は一人ひとりが自己反省の上に立って、いかに自分自身に厳しくなれるかにかかっており、その厳しさの度合がシーズン後に「答」を出すことになるだろう。

本当にサッカーが好きなら、今一度サッカーに熱中して、関西社会人リーグ復帰を果してもらいたいものだ。

かつて兵庫県からは、新日鉄広畑、三菱重工神戸、兵庫教員と３チームが関西リーグで活躍していたが、来シーズンは兵庫教員のみになってしまった。三菱重工神戸のみならず、他のチームも上位リーグをめざしてしのぎをけずり、兵庫県社会人チームのレベル・アップを図ろうではないか。（三菱重工神戸監督　岡村敬）

明日の栄光を勝ちとれ！
▲80年代をリードする ヤンガー サッカーウェアー
younger
SOCCER WEAR, PANTS. STOCKING

スポーツの底辺を拡充する
MONT BLANC
モンブラン株式会社
写真はマーカム11・ケリー
markam
マーカム・サッカーシューズ
マーカム11 ケリー・レッド・ブルー・イエロー
●サイズ…16.0～28.0　標準小売価格 ¥4,300
マーカム22 ホワイト・ケリー
●サイズ…22.0～28.0　標準小売価格 ¥6,000
マーカム33 ホワイト
●サイズ…22.0～28.0　標準小売価格 ¥7,800